

種員作
國貞畫

三
繼
禪

三拾編下



1178
60

十
輯



狂
是
曲
多
因
名

三拾編上

廣
幸
文
庫

1178
59



十一輯

狂言西多國多



三拾編上

廣幸
文庫

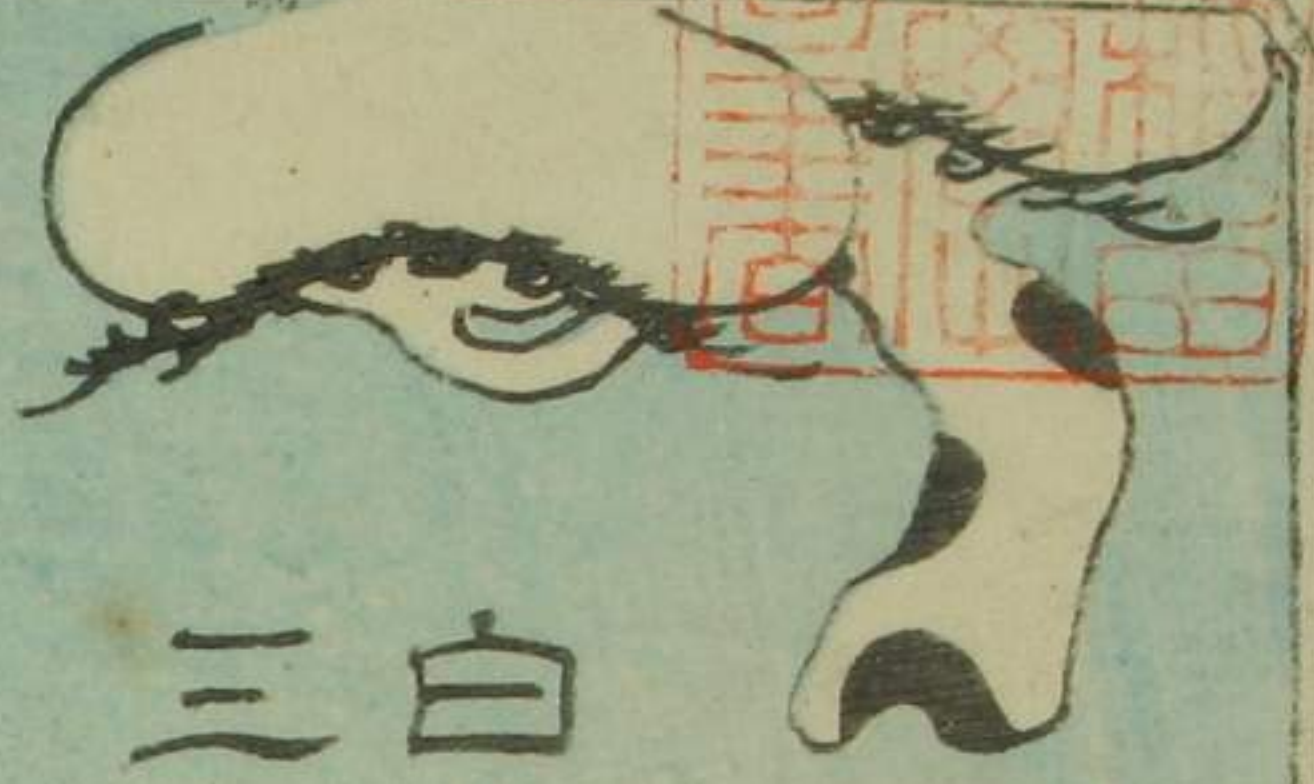
特
へ13
1178
59



鷹津
 六郎
 正時
 博多
 小女
 郎

曲五因

へ 13 特
 1178
 59



庚申
 新刻

白縫物語
 三十篇
 上集



多保の伝
 法
 ちん
 ちん
 ちん

庚申



庚申



菰原猪助女弟
小文治秀勝
庵川

世之國包



市原左門娘綾織
鳥山豊後介侍忠

歌人の屋敷多し名所をわきま諸國を巡りてくる程は
 戯作者なるものる後地理を疎くして來り
 かりた物の本書綴ハ自他への習俗を錯誤ハ
 番毎にあり一安藝の宮島の周防長門の海上を遙
 隔て遠く京都の如く手輕くして塔の噂は阿弥陀寺
 五層の宝塔涌出するも皆是理外の寓言を株守らぬ免の前脚に知さず
 地書ると調て無益骨折する趣向の新意を枕を碎き中から出る胡桃の膏つやわ
 文章こそ作まりし然らば頂雲巖より筑前の續風土記に負ひの厚意を感
 りこれの發明とするこの少くぬわらざる隣國豊後の話も移ると其地書左右ある
 なむねばとも全備せぬと看破せし顧及びとて次編の韓泊豊後介侍家切の
 其名計のが啞あておろく名所方角抄で歌咏するも賞東るは風景の讀みあはせ

庚申新春

柳下亭種員記

柳下亭種員記





たふのり三十編



たふのり三十編



つらうぐじりの
おれんやくのべりて
あら梅をおよせ
くせいのちをまひ
あやまはざるま
さなちねあまの

あやまはざるま
さなちねあまの
あやまはざるま
さなちねあまの
あやまはざるま
さなちねあまの

おれんやくのべりて
あら梅をおよせ
くせいのちをまひ
あやまはざるま
さなちねあまの

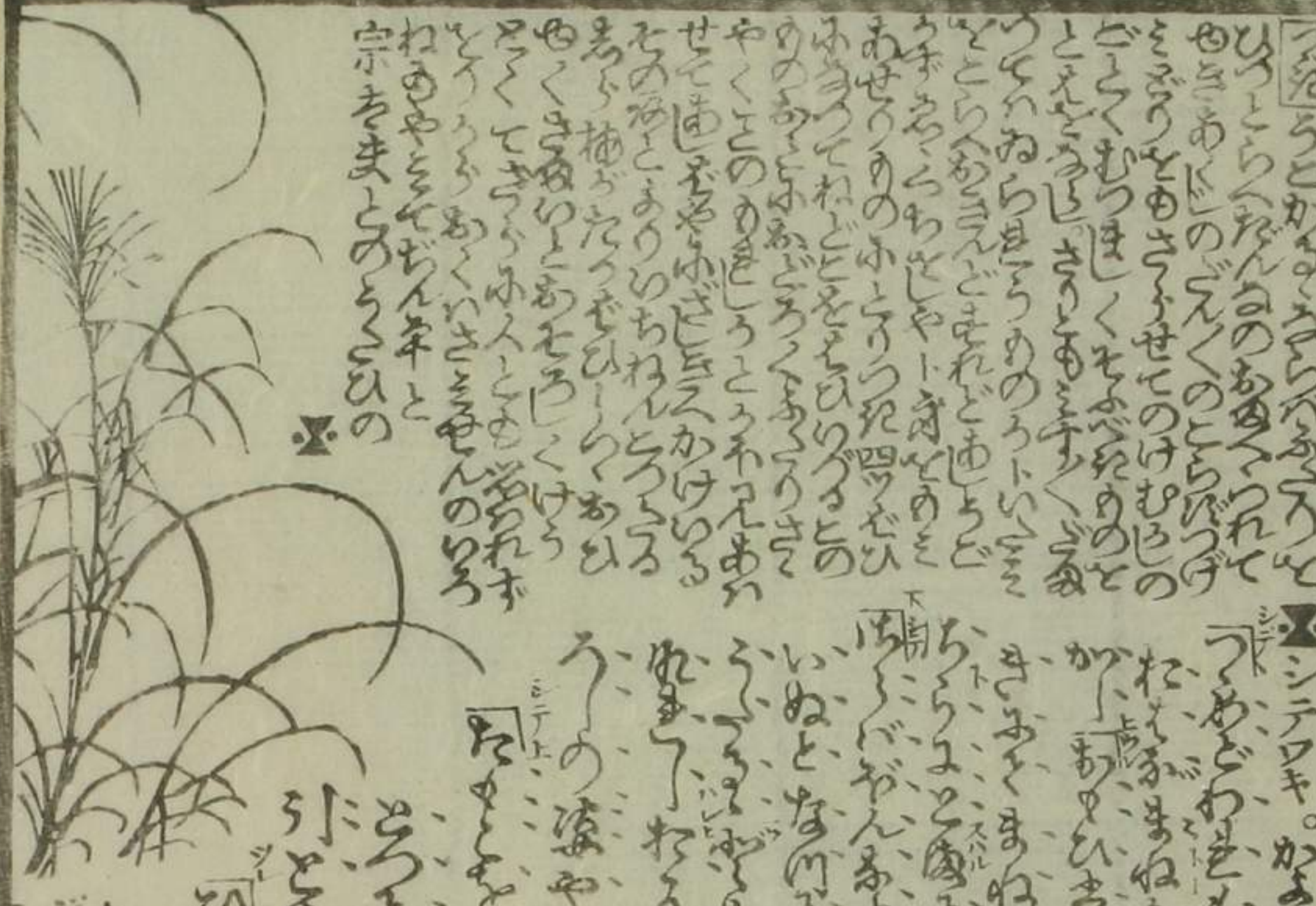


老翁不動

あやまはざるま
さなちねあまの
あやまはざるま
さなちねあまの
あやまはざるま
さなちねあまの

あやまはざるま
さなちねあまの
あやまはざるま
さなちねあまの
あやまはざるま
さなちねあまの

うらたか... (Vertical text columns at the top of the right page)



小町... 白梅... 怖気... (Text at the bottom of the right page)



画のつ... 典... (Text at the bottom of the left page)

あはれ三十一

宗太夫ちん年らつこのよ
 九つうらあまびあひこち
 ひてわいのあまびあひこち
 たのあまびあひこち
 てかゝるひこち
 ちん年らつこのよ
 九つうらあまびあひこち
 ひてわいのあまびあひこち
 たのあまびあひこち
 てかゝるひこち



宗太夫ちん年らつこのよ
 九つうらあまびあひこち
 ひてわいのあまびあひこち
 たのあまびあひこち
 てかゝるひこち

宗太夫ちん年らつこのよ

宗太夫ちん年らつこのよ
 九つうらあまびあひこち
 ひてわいのあまびあひこち
 たのあまびあひこち
 てかゝるひこち



宗太夫ちん年らつこのよ
 九つうらあまびあひこち
 ひてわいのあまびあひこち
 たのあまびあひこち
 てかゝるひこち

宗太夫ちん年らつこのよ

九

國貞圖画

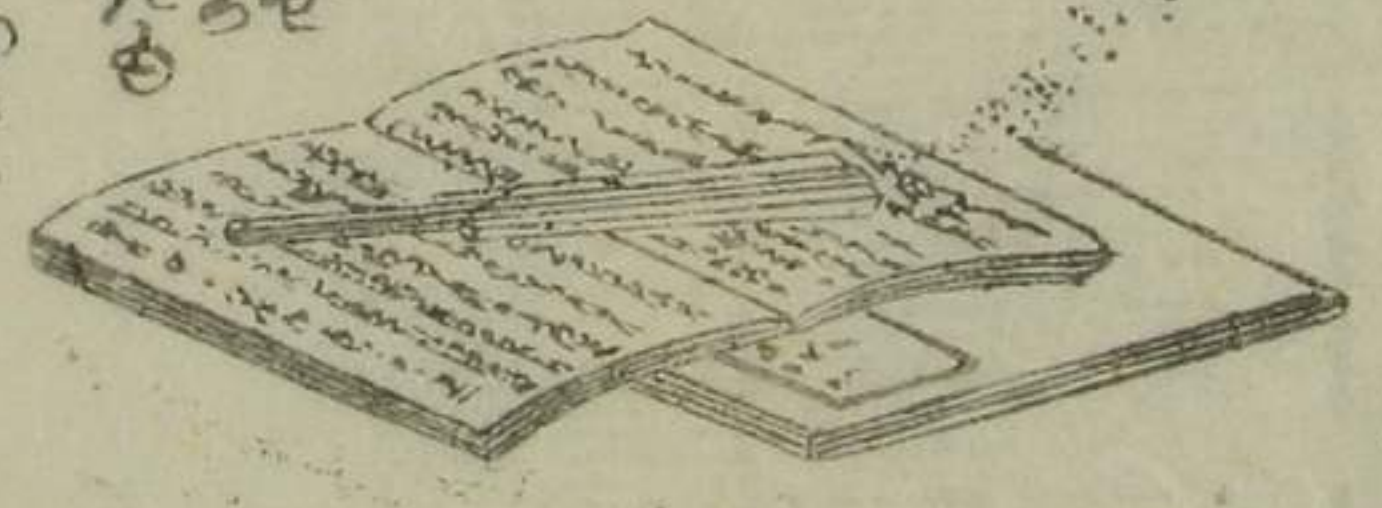


むつり... けり... 八丁... 目の次... 入り... ふれ... これと... えいそも... おまれば... こめ... かしつ

あつせの... けり... 八丁... 目の次... 入り... ふれ... これと... えいそも... おまれば... こめ... かしつ

種員

著



ねがひ... 著... 種員... ねがひ... 著... 種員...

志のぬし

志のぬし... 志のぬし...

両面織花田物語

両面織花田物語... 両面織花田物語...

假名讀八犬傳

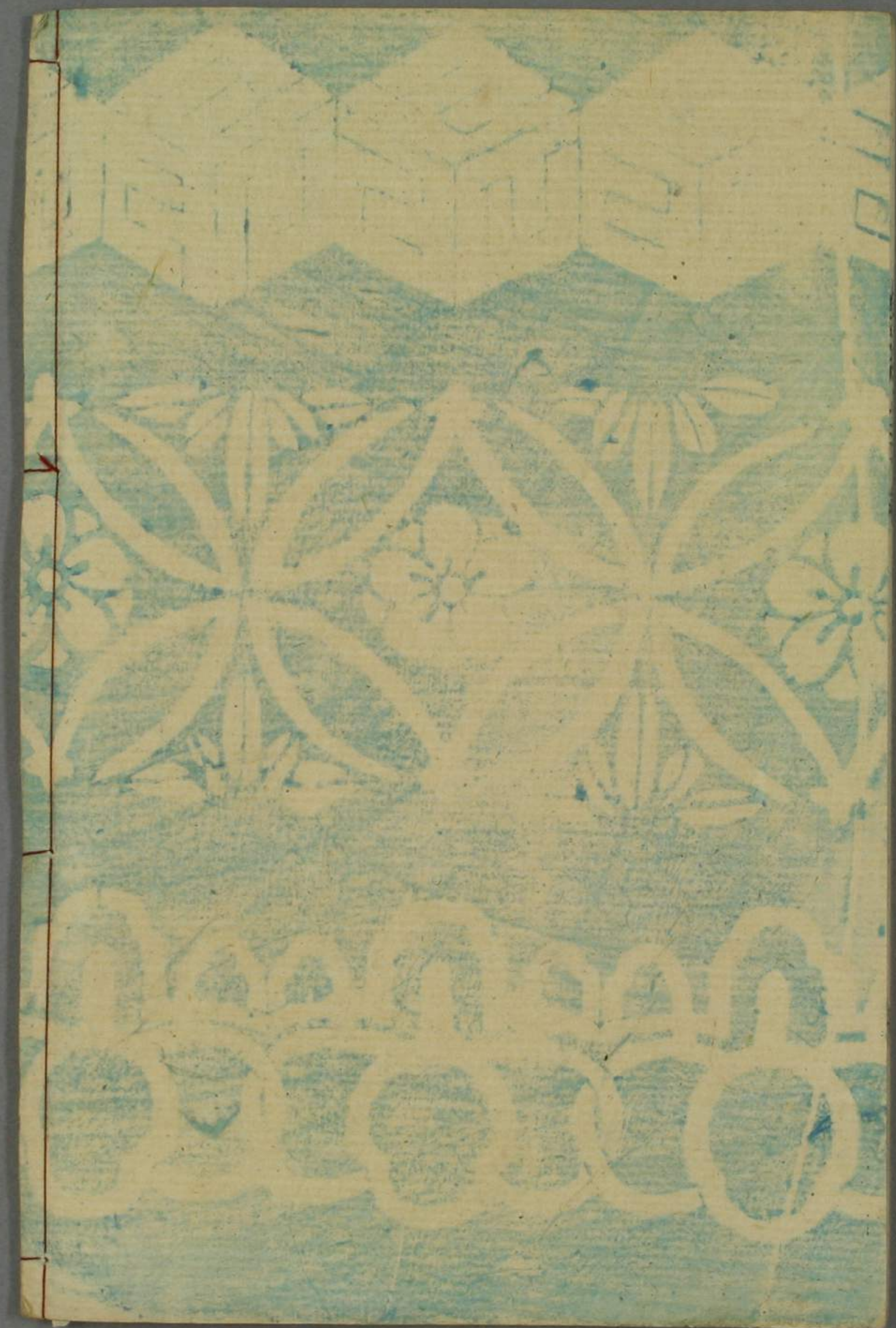
假名讀八犬傳... 假名讀八犬傳...

古今似顔大全

古今似顔大全... 古今似顔大全...

太平記英勇傳

太平記英勇傳... 太平記英勇傳...



三

種

禪

種員作

國貞畫

三拾編下



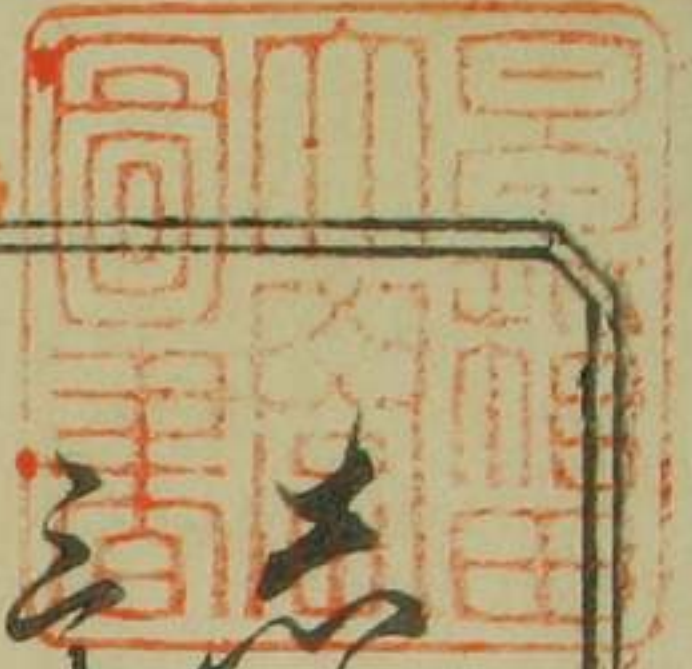
43
 ^ 13
 1178
 60



廿一編
下快
巻首の
例と追
玄之丞
翠が
親熱
様と

画のせ看官小醋と
契セとをきくは是白梅が

貴慮と
余の
憐と
料とあり



へ13
178
60

あつた
二十編下の巻

板元
廣業

製
別
きりうた

一子に枝葉の中を回るとは世にきくは
許しおのちよりの味とくひもわりの
料又精製は名はくちりの程をあの
海草とらば
己たのちの味
鶴花亭





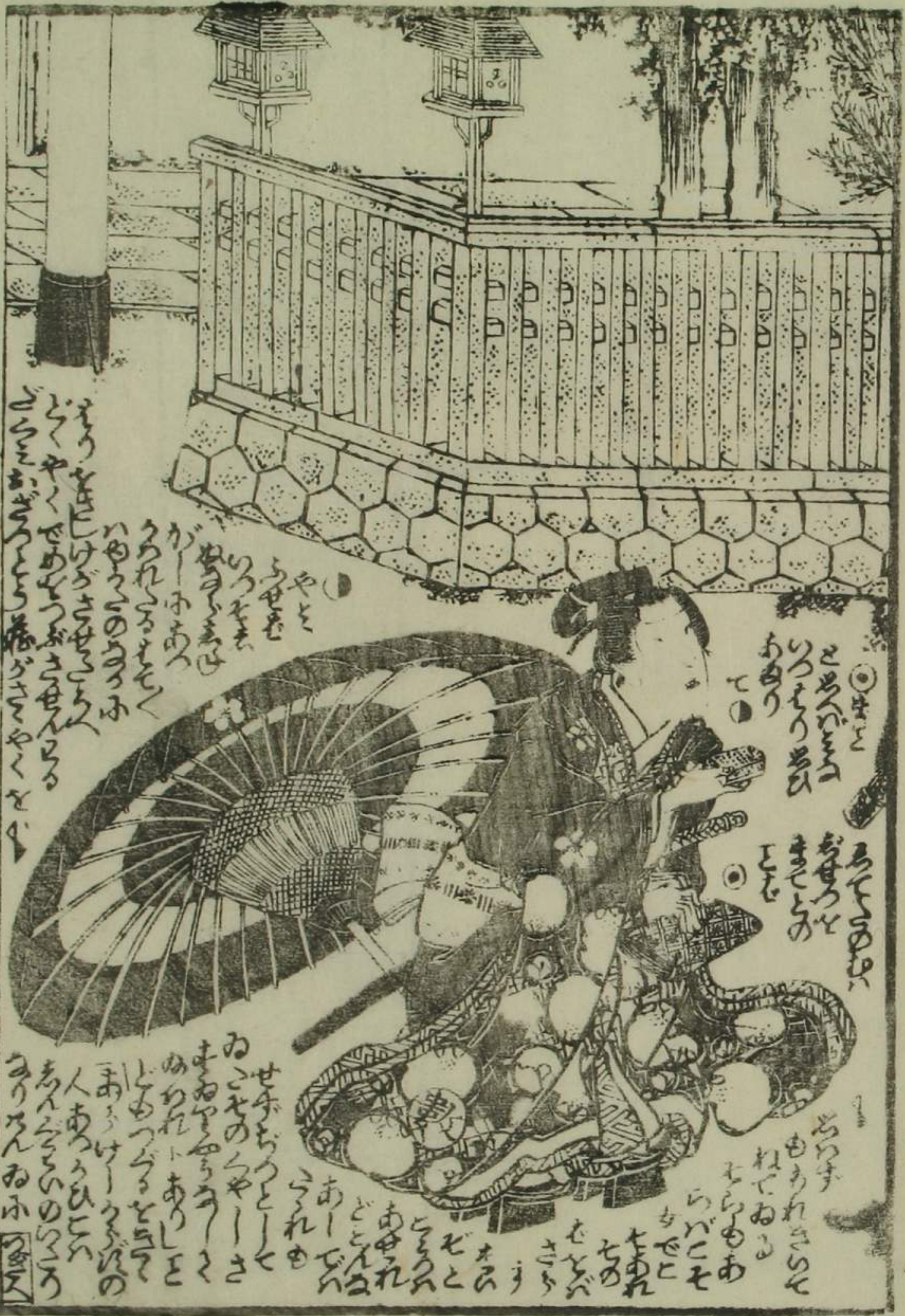
上巻よつたかきつひくのりつて
ふーさつたまけふおんあんををち
川があふのりつてせなるとのあやつ
まぢふせいでこのあーちあわも
けどろてこちうらけあらしつてあをそ
さふすあひをこころこのちあひを
あふのりつてせなるとのあやつ
カ士のかひあはれとて
をち川があふのりつて
ていつたてひさあ
ちのちあひをこころこのちあひを
てこれと

伊達五郎
玄之丞
對面の
圖ハ
廿九
の編

せーゆゑ
このの
のこりの
てゆ

伊達五郎
玄之丞
對面の
圖ハ
廿九
の編

そのあふが
こころあふが
こころあふが
こころあふが



おのれ

さうやういふ
うらやまの
かゝるもの
はなれりや
さういふ
うらやまの
かゝるもの
はなれりや

おのれ
さうやういふ
うらやまの
かゝるもの
はなれりや
さういふ
うらやまの
かゝるもの
はなれりや

おのれ
さうやういふ
うらやまの
かゝるもの
はなれりや
さういふ
うらやまの
かゝるもの
はなれりや



おのれ
さうやういふ
うらやまの
かゝるもの
はなれりや
さういふ
うらやまの
かゝるもの
はなれりや

おのれ
さうやういふ
うらやまの
かゝるもの
はなれりや
さういふ
うらやまの
かゝるもの
はなれりや

